

日本選挙学会

2006年度第1回理事会議事録

日時：2006年5月21日（日）8：30～9：30

場所：上智大学四谷キャンパス、9号館3階9-359

出席者： 田中理事長，荒木，池田，池谷，石田，伊藤，岩崎，岩渕，川人，川戸，河村，桑原，河野，小西，小林，杉本，谷，玉井，堤，平野，安野，山田，游，湯浅，和田理事，河崎事務局長，今井，高安幹事

会議開始前に、2007年度の事務局は、河崎健事務局長（上智大学）、今井亮佑（首都大学東京）・高安健将（成蹊大学）・名取良太（関西大学、11月帰国予定）幹事の体制を取ることが報告された。

議題

1. 2006年度予算案の件

河崎事務局長より、企画・年報・文献の各委員会に10万円、事務局に10万円が渡される旨報告があった。また、資料移転や備品購入、事務局の交替のための経費として20万円が計上されているとのことであった。

なお、支出の抑制か収入の増加が必要との報告も併せてなされた。1つの方策として、各委員会の活動費について、これまでの渡し切りを、領収書ベースで経費を報告してもらう形に変更されることになった。1年間様子を見て、今後のことを考えることとなった。

会員増・会費の値上げ・大会参加費徴収・支出抑制の可否について1年間かけて検討することとなった。

池田理事から、大会参加費徴収の可能性を念頭に置くことが提案された。現在では学会で大会参加費を徴収するのは一般的であり、収入増が可能なところから着手するならば、例えば参加費2000円で200人が参加すると40万円の収入が見込めるとのことであった。

杉本理事から、収支の費目の並べ方に関して提案がなされた。

2. 各委員会の活動状況について（各委員長）

①企画委員会

2007年度は池谷委員長、2008年度は増山委員長の下、企画委員会が組織されることが池谷理事より報告された。

②年報編集委員会

2007年度の山田（23号担当）委員長より、以下の報告が行われた。

- ・ 本委員会の運営は、査読委員会制度の進捗状況によって大きな影響を受ける。
- ・ 大会との連携という観点から池谷企画委員長にも年報編集委員に加わってもらった。
- ・ 独立であった紀要小委員会を、本委員会では年報編集委員会と一体化するようにした。
- ・ 事務局枠の年報編集委員として本年度は今井幹事、来年度は高安幹事が加わり、科研費の申請を担当する。

2006年度の平野（22号担当）委員長より、年報第22号には2件、紀要第7号には4件、紀要第8号には8件の投稿があった旨の報告があった。また、今回の大会で行われた25周年記念の2つのシンポジウムのテープを起こして年報に掲載するのか、テープ起

こしの外注は認められるのか、予算措置はあるのか、といった質問がなされた。これに対し小林理事から、大会中に行われた要約筆記のファイルをもらえればよいのではないかということ、慶應義塾大学の場合費用は90分5万円であったとの発言がなされた。

③文献委員会

2006年度は堤委員長、中村悦大委員、森正委員で文献委員会が構成されることが報告された。2007年度に関しては、次回までに人選を行うことが小西委員長より報告された。また、Web入力システムの構築を検討していることも併せて報告された。

④選挙管理委員会

和田理事から、選挙管理委員の選出方法等に関し、実情に即す形で規定を変える必要があるとの提案がなされた。

3. 2007年度大会開催時期の件

神戸大学・伊藤理事から、2007年5月19日・20日に開催する方向で、学内的に手続きを進めている旨報告があった。

4. 2008年度大会開催校の件

日本大学・杉本理事から、現段階では未定との報告があった。

5. 査読委員会の体制の件

査読委員会と年報編集委員会の役割分担のあり方や掲載可否の決定権限の所在について、様々な意見が出された。田中理事長から、2007年度の山田委員会にはいずれにせよ間に合わないので、1年間かけて議論を行い、日本政治学会の査読委員会（委員長は杉本理事）の様子を伺いつつ、小林理事の案を土台に和田理事にも相談しながら原案を作成し、来年の総会に諮って、2008年度の河村委員会に間に合わせるとの提案がなされた。

なお、提案された「論文投稿規程」の「8 論文の形式」に関し、年報はこれで構わないが、紀要は慶應義塾大学出版会との間に「39字×35行、図表埋め込み」との取り決めがあるため問題があるとの発言が、岩淵理事よりなされた。

6. 年報バックナンバー保管の件

長年、河野理事・岩崎理事のご協力により、年報のバックナンバーは杏林大学に保管していたが、これを早稲田大学に移動することになった。今後バックナンバーとブックレットの保管部数が問題となる。各号100部ずつが限度であるとのことであった。

河野理事からは、もう少しの時間は置いておけるかもしれないとの発言があった。

池田理事より、過去に遡及して電子化することが可能になれば、その分は保管する必要がなくなるため、長期的には10年以内に電子化するのが望ましいとの発言があった。

小林理事から、英文の雑誌が優先されるとの指摘があった。

7. 入会申込者・退会希望者の件

1名の入会が承認された。（追記：7月中旬、メール理事会で2名の入会が承認された）

8. その他

次回理事会は、10月7日（土）午前10時から早稲田大学にて開催されることとなった。（追記：後日、9月30日（土）に変更された）

以上